

国際化学肥料ニュース（2014年9月）

肥料業界の2014年9月動態

- * ロシア Uralkali 社は1～6月の業績を公表した際に、今年の加里肥料販売量が1,150万トンに達する見通しを発表した。塩化加里の国際価格がゆっくり回復し、特に大粒塩化加里が不足している。2014年1～6月の上半期に世界塩化加里貿易量が3,300万トンに達し、下半期にも2,500～2,600万トンの需要量が期待され、今年1年間に5,800万トンに回復し、2015年に塩化加里需要量が6,000万トンを超えると予測する。
塩化加里の需要回復を受け、Uralkali社は現在開発中のUst Yayvinsky加里鉱山が来年中に完成し、生産開始する。また、もう1か所のプロジェクトも予定通りに2016年に完成する。この2か所の新規鉱山が稼働すれば、年間の塩化加里生産量が350～450万トン増加する。将来には750万トン/年の規模に拡大する可能性もある。
- * ベラルーシ BPC 社は2014年の塩化加里販売量900万トン为目标とする。7～8月にイランに2回計13.2万トンの塩化加里入札に落札した。
- * エジプトは8月からの持続的な高温天気に電力需要の急増により天然ガスが不足で、輸出向けの尿素メーカー4社の生産ラインがすべて強制的に休止された。現在、エジプト政府は9月中旬に天然ガスの供給を再開すると約束したが、生産ラインの再開と尿素的輸出できる時期が不明である。メーカーが提示した9月の小粒尿素FOB価格が390ドル/トンである。
- * カタール Qafco 社のNo.5とNo.6尿素生産ラインが正常に運転している。毎月35万トンの大粒尿素を生産し、全量輸出に供する。
- * カナダ Canpotex は今年7月の塩化加里輸出数量を公表した。輸出量が昨年同期より15%増の144.7万トン、1～7月の輸出量が2%減の1,046万トンであった。主な輸出先はアメリカ554.1万トン、ブラジル125.3万トン、中国72.1万トンであった。
- * イスラエル ICL とインド Zuari が2014～2015年度の塩化加里輸入契約を締結した。価格がCFR322ドル/トンである。
- * 9月19日、インド MMTC 社が行った尿素入札に関する応札結果を公表した。尿素的国際価格上昇の影響を受け、最低応札価格CFR302.77ドル/トン、最高応札価格

CFR327.50 ドル/トン、ほとんどの応札価格が CFR308~315 ドル/トンに収まり、
応札数量 220 万トン、プラス 50 万トンの選択数量である。

- * ベトナムからの報道によれば、ベトナム政府は尿素の輸入関税を 3%から 6%に引き上げることに決めた模様。昨年下半期からベトナム国産尿素はすでに国内需要量を満たすことができるが、価格面では中国の廉価尿素に負けて、8月の1ヶ月だけで 3.12 万トンの中国尿素が輸入された。国内尿素産業を保護するため、尿素輸入関税を引き上げることにする。本件について、まだ政府からの正式コメントが得られていない。
- * 中国の化学肥料業界の不況が続いている。8月の化学肥料生産量が昨年同期より 1.7%減で、その内訳は窒素系肥料 3.9%減、りん酸系肥料 0.1%増、加里系肥料 11.6%増であった。今年 1~8月の化学肥料生産量 4,580 万トン、昨年同期より 2.3%減、そのうち窒素系肥料 3.1%減、りん酸系肥料 2.9%減、加里系肥料が逆に 7.6%増であった。

大手各社の営業業績

- * ロシア Uralkali 社が 1~6月の業績を公表した。前年同期に比べ、売上高が 1.2 億ドル増の 17.3 億ドル、納税前利益が 12%減の 7.67 億ドル、納税後利益 7%減の 3.7 億ドルであった。売上増加の原因は塩化加里生産量が 150 万トン増の 600 万トン、輸出が 55%増の 510 万トン、総販売量が 180 万トン増の 610 万トン、鉱山と精製工場の稼働率が 90%に上昇し、生産コストが 51 ドル/トン削減した。利益減の原因は販売価格の下落である。国内出荷価格が 257 ドル/トンから 156 ドル/に、輸出価格が 316 ドル/トンから 220 ドル/トンにそれぞれ値下げされた。
- * 9月15日、モロッコの OCP 社が 1~6月の業績を公表した。りん酸肥料販売量 270 万トン、昨年同期より 9%増であったが、売上高 24 億ドル、逆に 6%減であった。粗利 5.63 億ドル、純利益 1.5 億ドル、昨年同期よりそれぞれ 12%減、67%減であった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 9月3日、アメリカ KBR 社は Koch Nitrogen 社の新設尿素生産ラインの建設を請け負うと発表した。当該尿素生産ラインが Koch Nitrogen 社のオクラホマ州 Enid 工場に建設し、生産能力が尿素 90 万トン/年、投資額 13 億ドルの予定。
- * インド Rashtriya 社はイランに尿素工場を建設するためにイラン側の合弁相手を探していると表明した。Rashtriya 社の CEO Rajan 氏がイランに 127 万トン/年の尿素工場を建設するために約 8 億ドルを投資する計画を披露した。

一方、Rashtriya 社の CEO Rajan 氏がインド石炭、Gail 社、インド化学肥料の 4 社合弁の形で、Talcher 地区に石炭を原料とする化学肥料総合工場を建設する構想も発表した。実現できれば、アンモニア 2700 トン/日、尿素 3850 トン/日、硝酸 850 トン/日、硝安 1000 トン/日の生産能力を有する。総投資額 14.7 億ドルの予定。

また、Rashtriya 社は単独でインドの Thal 市にある肥料工場に新たに尿素生産ラインを増設し、生産能力がアンモニア 2200 トン/日、尿素 3850 トン/日、投資額 7.35 億ドルと予定される。

その他

- * 中国は 2015 年から化学肥料の増値税徴収を再開する可能性が非常に高い。7 月末、中国政府が大手化学肥料企業、関連業界団体を集めて、増値税再開に関する意見聴取会を開いた。

2001 年、尿素と DAP、加里肥料以外の化学肥料に対して増値税の徴収を中止した。また、2004～2008 年、尿素、DAP、加里肥料にも増値税の徴収を中止した。しかし、化学肥料の生産過剰と輸出増大、農家への直接補助制度の充実、公的農業補助金不足等により、中国政府が化学肥料の増値税徴収再開を目論んでいる。

増値税徴収が再開して、税率を 13% に設定する場合は、尿素が約 50～70 人民元/トン、DAP と MAP が約 70～100 人民元/トン高くなる計算である。

一方、2015 年から現行の需要期と非需要期に分けている化学肥料の輸出関税制度を撤廃して、輸出税率を年間 1 本化することがほぼ確定したようである。但し、輸出関税が現在の非需要期輸出関税より高く設定することもあり、増値税の再開を合わせて、来年から中国の化学肥料輸出価格が上昇する見込みである。

- * 9 月 23 日、ノルウェーの YARA 社とアメリカの CF 社 (CF Industries Holdings) は 2 社合併について協議を始めたと発表した。

YARA 社は世界最大のアンモニア、硝酸塩と化成肥料のメーカーで、2013 年にアンモニア生産量 736 万トン、化学肥料生産量 1870 万トン、販売量 2370 万トン、化学工業製品 493 万トン、総売上高 134 億ドル、粗利 21 億ドルであった。販売網が世界数 10 ヶ国にあり、その製品が世界 150 ヶ国に使用される。

CF 社はアメリカとカナダに窒素肥料の工場を有し、北米最大の化学肥料メーカーである。2013 年に化学肥料販売量 1480 万トン (窒素系肥料 1290 万トン、りん酸系肥料 190 万トン)、売上高 55 億ドル、粗利 27 億ドル。今年 3 月、所有のりん鉱石とりん酸肥料業務を Mosaic 社に売却して、純粹の窒素系化学肥料会社となった。

2 社が合併すれば、売上高が 181 億ドル以上の巨大な化学肥料会社となる。但し、YARA 社の最大株主がノルウェー政府 (持株率 36.21%)、第 2 位株主がノルウェー政

府の年金基金（持株率 4.72%）であるため、政府系の持株が 2 社会弁の障害となる可能性が高い。